



大学の授業は、興味のある分野を深く学べ、
価値観や視野が広がった

進路実現に向けた学びが得られた

大学の授業の雰囲気を知ることができた

教員や大学生が温かく歓迎してくれたので、
学びやすい環境だった

大学生が自分の意見を積極的に発表している姿を
みて刺激を受けた

“科目等履修制度” 高校生が「大学の授業」を受けられる！

先取り履修のポイント

- ・ 本学入学後に単位に認定
- ・ 大学生活にゆとりができる
- ・ 学内の施設が利用可能
- ・ 大学生や社会人と一緒に授業を受けられる
- ・ 本制度の入学料免除

出願方法・出願書類

「高等学校等に在学する者に関する科目等履修生入学願書」を提出

※在学する高等学校等の長の推薦が必要です。お早めにご準備をお願いします。



願書受付期間：2026年7月1日(水)～9月10日(木)

募集要項、開講科目などの詳細はQRコード又は、山梨県立大学ホームページ「入試情報」から「科目等履修生など」をご覧ください。

<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/course-students/>



令和8年度 高等学校等に在学する者に関する 科目等履修生について（後期募集）

受講料：7,400円（税込） / 1単位（入学検定料・入学料は免除します。）

NO.	科目名	担当教員	科目の内容
1	地域のチャレンジ1	今井久（山梨県立大学特任教授） 杉山歩（国際政策学部教授）	山梨県内で地域づくりに取り組んでいるの方々とのビジョンや考え方、思い、コンセプトに触れ、その活動を成功へと導いた原動力について学びます。講義には、自治体やNPOでの実践を通じて、山梨の魅力を日本国内のみならず世界に向けて発信しているゲストをお迎えします。地域に根ざしながらもグローバルな視点で挑戦することの意義について自ら考察し、地域資源が持つ可能性への理解を深めることを目的とします。
2	地域のチャレンジ2	今井久（山梨県立大学特任教授） 杉山歩（国際政策学部教授）	山梨県でビジネスに取り組む実践者を招き、彼らのビジョンや思いに触れながら、成功の原動力を学びます。伝統・地域産業から世界市場へ挑むプロダクト開発の事例を通じて、地域に根ざしつつグローバルに挑戦する意義を考察し、地域産業の持つ可能性と魅力を再発見することを目指します。
3	グローバルマインドとスキル	嶋津幸樹（英語教育エキスパート）	英語を「学ぶ」のではなく、「使って」世界と自分を探究する全5回の講義です。英語の4技能に加え、「自分軸」「他者軸」「社会軸」をもとにグローバルマインドを育みます。自己分析や自己探究を通して、新たな視点と価値観を獲得し、最終回では教養テーマと人生を融合させた英語プレゼンを行います。山梨と世界をつなぐ力を育てることが目的です。
4	観光実践マネジメント講座	瀬戸川礼子（経営ジャーナリスト） 増田貴史（国際政策学部教授）	経営ジャーナリストである講師が、取材を通じて得たマネジメントの知見を解説する講義4回と、ゲスト講義4回を組み合わせた実践的な授業です。観光・医療・製造など幅広い業界に不可欠な「高付加価値化」の視点を、写真や図表を用いて論理と感性の両面から学びます。講師によるレポート指導を通じて、思考力と表現力も同時に養います。
5	ネイチャーガイド演習1	今井久（山梨県立大学特任教授）	山梨県には、世界文化遺産やユネスコエコパークなど、自然の美しさはもちろん、多様な歴史や文化を色濃く残す山岳地域が広がっています。ネイチャーガイドをキーワードに、山岳信仰などの地域の歴史や文化なども紹介しながら、季節に合った多様な視点で、その現代的な意義や概要を学びます。また実際に県内で実施されているネイチャーツアーに参加し、体験的な学習を行います。
6	まちづくりの思想と技術	田中友悟（山梨県立大学客員准教授）	地域課題の解決には、分析力・編集力・企画力といった複合的な力が求められます。「まちづくり」はこうした実践知に加え、公共を育てる営みでもあり、地域と私のよりよい関係を築くための思想であり技術です。本講義では、私たちの身近な行為である「作る」「使う」の視点からまちづくりを捉え直し、地域との関わり方を実践的に学びます。
7	地域における金融機関の役割	手塚伸（山梨県立大学学長特命補佐）	私たちの生活には水や空気と同様に、当然のようにお金が存在しています。資本主義社会では膨大な貨幣が流通し、「金融」という仕組みを通じて人々に大きな影響を与えています。しかしその本質は未だに明確にされていません。この講義では、金融の歴史や理論、さらに実務の現場から学びを深め、将来のキャリアに活かす力を養います。
8	芸術活動をととした多様性協働プロジェクト	中原和樹（演出家・脚本家）	演劇創作を通して、自他の価値観に触れ対話しながら、自身の内面から湧き上がる情動を表現することを目指します。この体験を通じて、自己理解や他者との協働を論理ではなく身体的・感覚的に学びます。感性を動かせることで物事を「自分事」として捉え、自他を共に大切に作る姿勢を育み、自身の視野と感性を広げていきます。
9	クラウドファンディング実践演習	澤伸恭（山梨大学地域未来人材育成センター特任教授） 佐藤文昭（山梨総合研究所調査研究部長）	ビジョンを実現するには、想いを言語化し他者の共感を得て周囲を巻き込む力が必要です。本講義では、クラウドファンディング「#やまなしクラウドファンディング」を活用し、実際にプロジェクトを企画・公開・実施。プロジェクトページ制作や事業の進め方を実践的に学び、構想を形にするスキルとマインドを育てます。
10	文化とコミュニケーション	今井啓一（元NHK解説委員長）	文化の違いが人と人とのコミュニケーションや相互理解にどのような影響を及ぼすのかを考えます。文化とコミュニケーションの関係性を考え、国際社会が多極化する中で多文化共生社会に向けての課題を考察します。
11	未来学 ※国際政策学部に入学者の場合に単位認定の申請が可能	増田貴史・杉山歩・長谷川愛（国際政策学部教授） 山崎スウ竜二（国際政策学部准教授）	これからの未来社会の姿やその社会に必要な資質・能力とは何かを考え、それに向けた準備として思考力とセンスを養います。正解のない課題へのアプローチ、付加価値の設計、ブランディング、創造的な価値の生み出し方などを学び、あらゆる分野に通用する力を身につけることを目指します。
12	子どもの権利 ※人間福祉学部に入学者の場合に単位認定の申請が可能	浅田明日香（人間福祉学部講師）	子どもの権利条約を価値基準として位置づけます。子ども自身の人生を、子どもを権利の主体として捉える視点から理解することを重視します。また、子どもを取り巻く多様な状況や課題を検討し、支援のあり方を学びます。権利、人権というワードは取っつきにくいと感じるかもしれませんが、人間が社会生活を送るなかで重要な価値基準となっています。実生活と照らし合わせながら考察を重ねていきましょう。

No. 1～9は、学生と社会人の垣根を超えた実践知教育プログラム「PENTAS YAMANASHI」の科目です。

授業内容等については、下記ホームページのシラバス（授業計画）を参照してください。

<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/course-students/>

